

「四国の若手をツナグ ワールド・カフェ」を開催

- 四国財務局地方創生支援のための若手プロジェクトチームが、同世代の新たなネットワークの構築や地方創生に向けたアイデアを生み出すための「ワールド・カフェ」を開催。
- 公務員、会社員、NPO法人、大学生ら計106名の若手が参加、柔軟な発想による様々なアイデアを提案。
- 参加者から、新規のワールド・カフェ開催の協力依頼があるなど、当イベントからの広がりが見られている。

概要

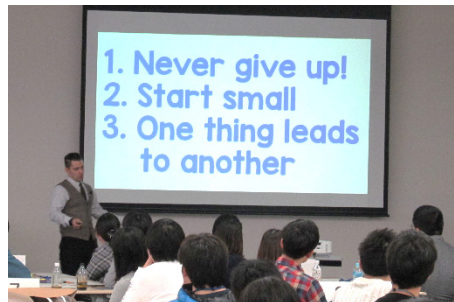
- 四国財務局若手職員が企画から実行に至るまで全てを担った「四国の若手をツナグ ワールド・カフェ」を開催(平成31年2月16日)。

～ワールド・カフェとは～

カフェのようにリラックスした雰囲気の中、少人数のテーブルでテーマに沿って自由な対話を行い、メンバーを入れ替えながら全員の意見や知識を共有するもの。

- 公務員のほか、会社員、NPO法人、大学生など幅広い主体から計106名の四国の地方創生に興味のある若手が参加。参加者全員に共通するテーマを議論。

- ゲストスピーカーとして、米国から香川県に移住し香川の魅力を国内外に発信している外国人が登壇。「諦めず、楽しみながらやってみて」、「小さなプロジェクトでも、始めると新たなつながりができる」と英語混じりの讃岐弁でエール。



【ゲストトークの様様】

取組の成果

- 会場は、終始活気と笑い声に溢れ、地域連携の土台となる若手世代のネットワークを構築。
- 「鉄道を利用した婚活事業」、「四国でeスポーツ大会」、「若手グループでお遍路を行い SNS等に投稿」など柔軟な発想によるアイデアが多数生まれ、同ワールド・カフェの継続開催の要望もあった。
- 開催後、参加者からは、女性の創業支援に関するワールド・カフェの開催にあたっての運営面での協力依頼があるなど、当イベントからの広がりがみられている。



【グループごとに意見交換】



【参加者全員で記念撮影】

地域経済エコシステム形成に向けたプロジェクト

- 徳島県吉野川市と徳島財務事務所の若手職員が作成した政策アイデアが、内閣府のコンテストで、第1位の地方創生担当大臣賞を受賞。同市と連携協定を締結し、アイデア実現に向けたワークショップを開催。
- 財務局が地域の各主体との「つなぎ役」として「吉野川市☆地域経済エコシステム」を構築。今後、各主体との対話を深め、地域の共通価値の創造を目指す。



概要

- 吉野川市と徳島財務事務所の若手職員の政策アイデア(※)が内閣府主催「地方創生☆政策アイデアコンテスト2018」で604件の応募の中から第1位の地方創生担当大臣賞を受賞。

※ エディブルフラワー(食用花)の栽培工場を誘致し、廃校舎の活用や地元雇用の拡大を目指すもの。



【コンテスト授賞式】



財務局の加勢で手こぎ船がエンジン付きボートに変わっていく取組のスピードが上がった(吉野川市職員)。

【連携協定締結式】

- 政策アイデアの実現等、地域経済の活性化を目的とした「吉野川市と財務省四国財務局との連携・協力に関する協定」を締結(平成30年12月18日)。

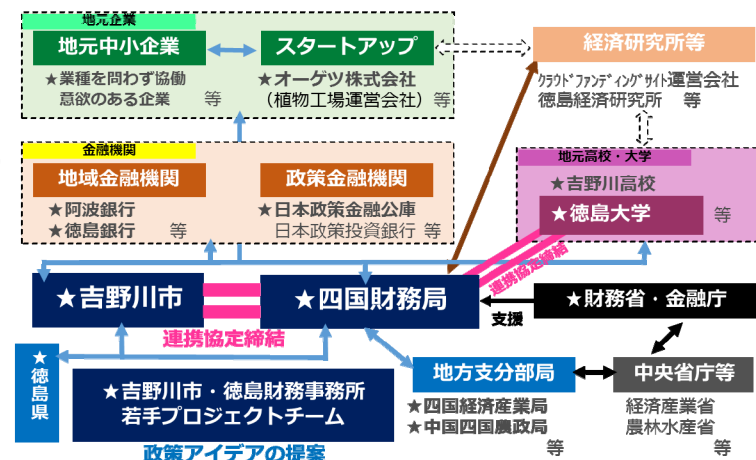
- 同日、キックオフイベントとして「花で彩る吉野川市の未来～地域経済エコシステム形成に向けたワークショップ～」を開催。金融機関、徳島県、国の出先機関が参加。

取組の成果

- 若手職員による政策アイデアの協働を契機に、地域の各主体間に多面的な連携・共創が生まれた。
- ワークショップでは金融機関からのアイデア実現に向けた具体的なビジネスプランの提言を受け、活発な意見交換を実施。
- 徳島県では県知事及び県庁内の各部局にも当プロジェクトの情報共有が図られており、徳島県との新たな連携につながる動き。
- 複数の地元企業から吉野川市に対し政策アイデア実現に向けた連携・協力の申し出があり、事業参加の具体的対話を開始。

- 「吉野川市☆地域経済エコシステム」相関図は右図のとおり。

※ 徳島大学との連携については次頁参照。



地域経済の活性化や人材育成に向けた大学との連携強化

- 徳島大学と地域経済の活性化や地域で活躍する人材育成に連携して取り組むため、連携協定を締結。
- 連携の一環として、同大学生が、徳島財務事務所と吉野川市の若手職員が取り組むプロジェクトに参加し、学生の新たな観点や発想をもった調査研究結果を発表。今後も新たな連携事業等を展開予定。

概要

- 四国財務局は、これまで徳島大学の各教員と個別に相談し、協力を得ながら、地域の実態把握調査等地域貢献のための様々な連携活動を行うとともに、毎年、インターンシップやスポット的な講義も継続して実施。

- 今後、組織同士でより密接に連携し、地域経済の活性化や地域で活躍する人材育成に取り組むため、当局と同大学で連携・協力協定を締結(平成31年1月11日)。
なお、当局としては、大学との連携協定締結は初めて。



連携・協力に関する協定締結式

【連携協定締結式】

- 協定締結を機に、徳島財務事務所と吉野川市の若手職員が協働して取り組んでいるプロジェクトの政策アイデア(※)実現に向けて、同大学の教員及び学生に対して協力依頼。

※ エディブルフラワー(食用花)の栽培工場を誘致し、廃校舎の利活用や地元雇用の拡大を目指すもの。

取組の成果

吉野川市と徳島財務事務所の若手職員が、定期的に徳島大学に出向き、同大学生と意見交換を実施。

同大学生が、エディブルフラワーを利用した商品開発の調査研究結果を発表(同大学主催公開シンポジウム:平成31年2月15日)。
⇒ 同市の知名度向上に向けたPR商品の開発を提案。



【徳島大学生の調査研究結果発表】



【徳島大学生、吉野川市と徳島財務事務所の若手プロジェクトチーム】

今後の展開

- 同市が新設する地方創生推進室と同大学との連携を進める。
- 新たな連携事業として、事業承継の必要な事業者と大学生をつなぐ取組を検討中。
- 地域経済の分析等を盛り込んだ寄附講義を新たに開講予定。

平成30年7月豪雨災害への四国財務局の対応

- 被災団体等を訪問し「財務局ができること」を周知するとともに、関係機関と情報を共有し展開。

【財 政 面】被災施設の復旧に向けて、業務応援体制を構築し災害復旧事業費を早期決定。

【金 融 面】金融機関に対し、被災者に対する柔軟な金融措置を速やかに要請。

【国有財産面】被災自治体を通じ、被災者に対し国家公務員宿舎を無償貸与。



概要

- 被災地を訪問し、財務局ができることの周知と要望等を聴取。

- ▷ 住宅・事務所・工場等が被災し、生活・事業再建を不安視している人が多い。
- ▷ 被災者支援策が不明で、見通しが立たない。
- ▷ 災害が広範囲かつ甚大であり、早期に復旧を開始したい。

- 要望を踏まえ、対応事項を検討。

- ▷ 県・各省各庁と早期に情報を共有。
- ▷ グループ補助金(※)等の被災者支援情報を収集し金融機関等に積極的に展開。



【豪雨被害の様子】

※ 今般の豪雨により甚大な被害を受けた地域の中小企業グループなどが施設を復旧、修繕等する場合の補助金支援。

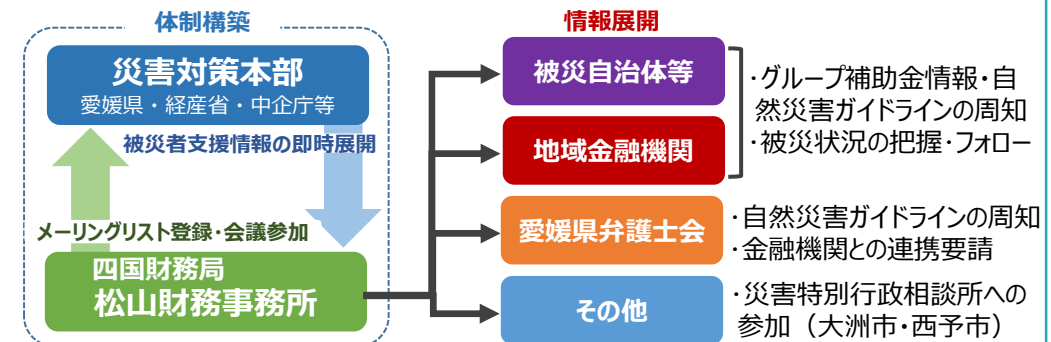
- ▷ 国の補助対象となる災害復旧事業費を早期に決定するため、組織全体で査定立会業務への応援体制を構築するとともに、研修やOJTを実施して応援立会官を養成。

- 災害発生後、速やかに金融上の措置を金融機関に要請(7月7日)。

- ▷ 通帳・印鑑等を紛失した場合の柔軟な預金の払戻 等

取組の成果

- 各種要望に基づき、関係機関と情報を共有し展開。



- 国の補助対象となる災害復旧事業費の早期決定に向け、四国管内の被災現地に立会官を派遣し(266班、平成29年は92班)、被災団体や所管官庁査定官と連携して同事業費を決定。
決定した同事業費は31年3月末で約7,000件、約1,000億円(29年は1,673件、180億円)。

- 公務員宿舎の無償貸与については、大洲市で7戸、宇和島市で2戸が利用され、うち6戸は31年2月末現在で入居中。